

1 近年の豪雨対策を取り巻く環境について

世界的な気候変動によると思われる影響により、これまで経験したことのない猛暑や豪雨、台風に伴う自然災害などが、全国各地で生じています。

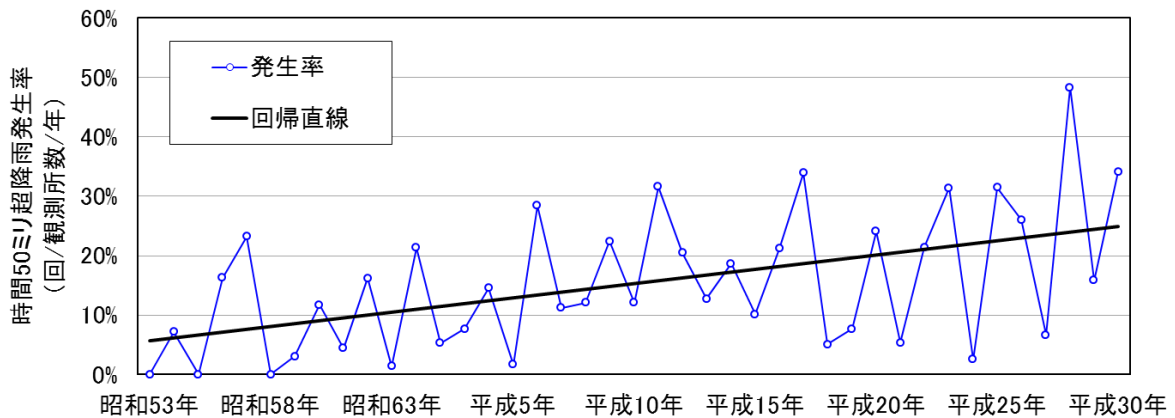
近年では、平成 27 年の関東・東北豪雨による鬼怒川の決壊、平成 28 年の相次ぐ台風上陸による北海道や岩手県での甚大な被害、平成 29 年の九州北部豪雨や西日本を中心に大きな被害をもたらした平成 30 年 7 月豪雨などが発生し、とりわけ、東日本を中心に大きな爪痕を残した令和元年台風第 19 号では、東京においても記録的な降雨となり、河川の氾濫等による浸水や道路の崩落など、甚大な被害に見舞われました。

このような豪雨災害から都民の生命と暮らしを守る豪雨対策の推進は喫緊の課題です。

そこで都では、近年の降雨特性を踏まえ、平成 26 年に東京都豪雨対策基本方針を改定し、目標整備水準をそれまでの時間 50 ミリ降雨から、区部では時間最大 75 ミリ降雨、多摩部では時間最大 65 ミリ降雨に引き上げ、新たな目標整備水準の達成に向けた取組を着実に進めています。

さらに、目標を超える豪雨に対しては、命を守るソフト対策の更なる充実も一層求められています。

＜都内の時間 50 ミリ超豪雨の発生率推移＞



データ出典：東京都建設局「過去の水害記録」